

# 夜尿症と落ち着きのない 6歳児のケース

岡本祥子(おかもと・さちこ)

RAH2期

日本ホメオパシーセンター東京武蔵小金井

JPHMA認定ホメオパス NO.0011

ZENメソッド習得認定 NO.0182

HMA認定ホメオパス NO.0926

JPHMA認定アニマルホメオパス NO.A0130

# 6歳 男児

## 主訴

- 落ち着きがなく、座ってられない
- 夜尿症

# その他の問題

- 食物アレルギー  
(ナッツ類・カカオ・ダニや埃)
- 小麦グルテンや牛乳をとると不調が出る
- 眼のまわりが黒ずんでいる
- 睡眠時間が短い
- 風邪をひきやすく、悪化しやすい
- 体幹が弱く、転びやすい
- 虫歯になりやすい

# 行動面・精神面

- 夜中に怖い夢を見て目を覚まし、その後、なかなか寝られない。
- 夜、怖がる。
- 昼間でも一人ではいられない。

# 過去の投薬やワクチン

- 体外受精で誕生（お母さんにホルモン剤投与）
- 胎児期に母がインフルエンザワクチン
- 胎児期に母が不育症で小児用バファリン
- ワクチン: BCG 4種混合 MR 日本脳炎  
水疱瘡 HIB 肺炎球菌 ロタ B型肝炎  
インフルエンザ

# 過去の既往

- 急性中耳炎（3歳）
- 熱性けいれん（3歳）

# 1回目のレメディ―

## 2024.3.3

朝 MT)サポート 発達障害・腸 +APIS 30C

昼 MT)サポート 9種の予防接種

夜 STRAM LM1

# レメディーをとって

## 開始した翌日

- ・いつもにまして大声、ハイテンションに。
- ・先生の言うことを聴かず、きつく叱られて泣いた。
- ・いつもよりこだわりが強くなる。
- ・問題集の間違いを悔しがり癩癩を起し暴れる。
- ・イライラして怒りが収まらない。

➡ メールにて相談が来る



# クライアントに伝えたこと

- レメディーをとると、抑えられていた行動面が一気に噴き出すことがあることを伝える。
- ある程度発散すれば落ち着くこと、抑圧せずに出させることがカギとなることも説明。

# クライアントからの返事


- あれからずっと声が大きくずっと喋り、  
行動が危ないが、  
きっかけがなければ怒りと癩癩はない。  
様子を見守りたい。

➡ 癩癩や怒りにはカモミラ

めそめそ泣く場合はポーズティーラを指示。

## 相談会2週間後のメール

- ・泣くことはあっても癩癩は出なくなっている。
- ・幼稚園での立ち歩きは増えている。
- ・ひどい車酔い、左耳の痛み、  
クシャミと大量の鼻水、下痢 などの症状

 それぞれの症状に合うレメディーを指示。

# その後の様子

- 鼻血が3回出た。鼻血が出るのは初めて。
- 大量の鼻水が出た。
- 怖い夢を見なくなった。
- 眼の周囲のクマが薄くなった。
- その日によってキャラが変わるが  
お祭り騒ぎキャラが減った。

# 2回目のレメディー

## 2023. 4. 28

随時 MT)サポート腎臓

夜 APIS LM2

# レメディーをとって

- レメディーをとり始め

38°C台の発熱、鼻血、黄緑色の鼻水、頭痛、咳

- 以前はほぼ毎日あったおねしょが激減
- 好きなことに対して集中するようになっていく。
- 小学校入学後、楽しく通っている。

# 3回目のレメディー 2024. 6. 23

朝 MT) サポート 4大重金属 +HYDROG200C

朝 MT) サポート腎臓

夜 アルポ PULS LM4 HEP LM2

随時 症状が出た時のための頓服として

下痢・アナフィラキシーに対して

オリジナルを作成し渡す。

# レメディーをとって

- 当初は夕方にだるくて気分が悪かった。
- 一時的に落ち着きがない時があった
- 39°Cの発熱と咳

急性のレメディーを指示し、



一旦落ち着く。

- その10日後、



- 酷い咳を伴う熱と40°Cの発熱。

昨年のRSウイルスと類似する症状。

発熱1週間。咳が続く。

➡ ホメオパシー療法をやっていると、改善の過程で過去の症状を繰り返すことがあるので、その可能性があると伝え、急性のレメディーを指示。

## 4回目相談会時点での様子

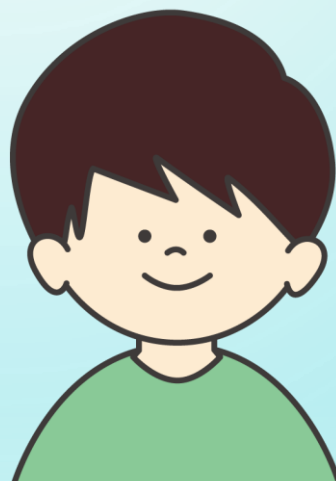
- しっかりした印象になった。
- 背筋が通った感じ。
- 話す内容が論理的でしっかりしている。
- 夜尿症は劇的に改善した。
- 「この世の存在」になった感じがする。
- 好きな事への集中力が増している。
- 小学校に楽しく通っている。



## ホメオパスが感じた 「印象」

- 以前は妖精さんのようだったのが  
「人間」になった。

- 実在感が増した。



# グランディングとホルモン薬

- ホルモン薬を摂ってきたり、  
不妊治療を通じて生まれたお子さんが  
グランディングが弱く、  
ボーっとし地に足がついていない印象  
が散見される。  
➡ HYDROG OP PHOS SEP GOLD-B-E など

## おわりに

- ・好転反応で、一時的に行動面や感情面が激しくなった場合、サポートや言葉がけが、乗り越えるための力になる。

# お母さんを取りまく社会の現状

- 日本社会では小さい子供の立ち居振る舞いに対して厳しいため、  
母親自身が非難されていて  
申し訳ない、と感じて  
追い詰められてしまう。
- お母さんの気持ちを楽に  
言葉かけの大切さ。



- ・お母さんに対するケアや、  
お母さんのつらさの背景にも目を向け、  
お母さんの心やインナーチャイルドのためにも  
相談会が必要となる。

